

令和元年度(2019年度)

管理事業名	少年自然の家事業				総合計画の体系	大綱 4 政策 3 施策 1	子育て・学び 青少年がすこやかに育つまちづくり 青少年の健全育成
主な歳出 予算科目	一般会計	(款) 10	教育費	(項) 5	社会教育費	(目) 6	少年自然の家費
部局名	地域教育部	予算執行所属	少年自然の家 (青少年室)				
予算大事業名 少年自然の家事業	上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名						
事業の目的と概要 少年自然の家は、自然の中での集団生活などを通じ、少年たちの心身の健全な育成を図る目的で、昭和55年(1980年)滋賀県高島市に設置しました。近年の家族や少人数グループの増加等利用団体の変容やニーズの多様化に対応するため、青少年の自然体験学習をはじめとする全ての世代の人たちの生涯学習施設として位置付け、施設名称、設置目的及び利用対象者等に関する条例改正を行いました。また、民間のノウハウを活用し、より魅力的な施設運営や事業展開が図れるよう、令和2年(2020年)4月から指定管理者制度を導入します。そのため、令和元年度には、事業者の募集、選定作業を行い、11月議会で指定管理者指定の議決を得ました。							

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	成果指標の定義
利用者数	人	20,113	18,753	16,290	施設の延べ利用者(利用人数×利用日数)
利用率	%	74	72	77	年間開所日数に対する利用日数の割合
利用団体数	件	353	303	299	年間の利用団体数
成果の説明	令和2年(2020年)1月からの改修工事と新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う約3か月間の臨時休館期間を除き、小・中学校、青少年団体及び家族や小人数グループ等の利用の受け入れとともに、施設の立地環境を活かした事業展開を行いました。施設運営事業の「少年キャンプ大会」は吹田市73名、高島市22名の参加があり、2泊3日の宿泊・プログラム体験等より参加者の相互の交流を深めました。「森林体験事業」は31名の参加があり、専門家からの講義や樹木の間伐体験等を行う事により、森林保全の重要性を学びました。「自然観察会」は、自然体験学習指導員が中心となり、四季の特色と施設の立地条件を活かした自然環境について学習するプログラムの提供を行いました。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

勘定科目	(単位:千円)			
	平成29年度	平成30年度 A	令和元年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	2,579	2,491	1,938	△553
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	104	105	96	△9
経常収入 小計(a)	2,682	2,596	2,035	△562
給与関係費	37,605	38,173	37,274	△899
物件費	28,588	28,863	33,057	4,194
維持補修費	6,949	4,693	14,768	10,075
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	974	950	902	△49
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	8,007	8,759	8,747	△13
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	1,880	1,959	1,976	17
退職手当引当金繰入額	1,399	1,688	479	△1,209
支払利息	-	-	-	-
その他	8,316	-	-	-
経常費用 小計(b)	93,718	85,086	97,203	12,117
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△91,036	△82,490	△95,168	△12,678
特別収入	-	-	-	-
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別収入 小計(d)	-	-	-	-
特別支出	-	-	0	0
固定資産除売却損	-	-	0	0
その他	-	-	-	-
特別支出 小計(e)	-	-	0	0
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	-	△0	△0
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△91,036	△82,490	△95,168	△12,678
一般財源充当額	87,819	74,054	87,664	13,610
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	△3,217	△8,435	△7,504	931

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
給与関係費	令和元年度から職員体制の変更による減(正規職員から再任用職員へ)
維持補修費	宿泊室の間仕切り工事及び野外倉庫屋根改修工事の伴う工事請負費7,920千円の増

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表 (単位:千円)

区分	平成29年度	平成30年度 A	令和元年度 B	差額 B-A
	行政サービス活動収入	2,682	2,596	2,035
行政サービス活動支出	77,990	76,651	89,699	13,048
行政サービス活動収支差額	△75,308	△74,054	△87,664	△13,610
投資活動収入	-	-	-	-
投資活動支出	12,511	-	-	-
投資活動収支差額	△12,511	-	-	-
財務活動収入	-	-	-	-
財務活動支出	-	-	-	-
財務活動収支差額	-	-	-	-
収支差額 合計	△87,819	△74,054	△87,664	△13,610
一般財源充当額	87,819	74,054	87,664	13,610
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容	特徴的な事項
(行政サービス活動支出)	宿泊室の間仕切り工事及び野外倉庫屋根の改修工事費(7,920千円)
	宿泊室の畳の取り換え工事(3,740千円)

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
開所日1日あたりのコスト	平成29年度	313 日	299,419 円	開所日1日あたりのコストは前年度より116,162円増加しました。主な要因として、家族等の利用の増加に対応し、施設を有効活用できるよう宿泊室の間仕切り工事等を行ったことにより維持補修費が増加したことによります。
	平成30年度	305 日	278,970 円	
	令和元年度	246 日	395,132 円	
利用者1人あたりのコスト	平成29年度	20,113 人	4,680 円	利用者1人あたりのコストは前年度より1,430円増加しました。主な要因として、約3か月間臨時休館を行ったことにより利用者が減少し、1人あたりのコストが増加したことによります。
	平成30年度	18,753 人	4,537 円	
	令和元年度	16,290 人	5,967 円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	平成30年度末 A	令和元年度末 B	差額 B-A	勘定科目	平成30年度末 A	令和元年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	1,959	1,976	17
未収金	-	-	-	地方債	-	-	-
流動資産	-	-	-	短期借入金	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	賞与引当金	1,959	1,976	17
短期貸付金	-	-	-	未払金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	リース債務	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	その他流動負債	-	-	-
有形固定資産	1,064,863	1,056,116	△8,747	固定負債	19,942	18,681	△1,260
土地	964,984	964,984	-	地方債	-	-	-
建物・工作物	99,878	91,132	△8,747	長期借入金	-	-	-
リース資産	-	-	-	退職手当引当金	19,942	18,681	△1,260
建設仮勘定	-	-	-	リース債務	-	-	-
無形固定資産	240	240	-	その他固定負債	-	-	-
インフラ資産	-	-	-	負債の部合計	21,901	20,658	△1,243
有形固定資産	-	-	-	純資産	1,043,202	1,035,698	△7,504
土地	-	-	-	重要物品	-	-	△0
建物・工作物	-	-	-	図書館資料	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	投資その他の資産	-	-	-
重要物品	0	-	△0	出資金	-	-	-
図書館資料	-	-	-	長期貸付金	-	-	-
投資その他の資産	-	-	-	基金	-	-	-
出資金	-	-	-	徴収不能引当金	-	-	-
長期貸付金	-	-	-	その他債権	-	-	-
基金	-	-	-	資産の部合計	1,065,103	1,056,356	△8,747
徴収不能引当金	-	-	-	負債及び純資産の部合計	1,065,103	1,056,356	△8,747
その他債権	-	-	-				

Ⅲ 財務構造分析

▽人にかかるコストの内訳

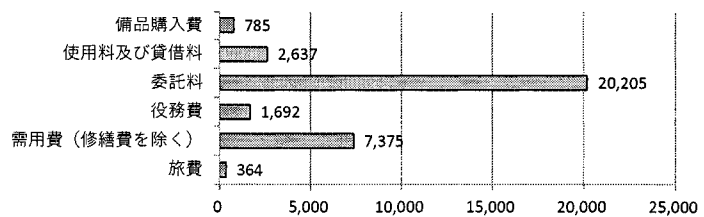
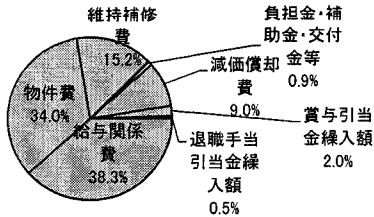
事業従事人数	常勤・再任用 月平均	非常勤 月平均	臨時雇員 年間従事延日数	審議会委員等 実人数	合計(千円)
	3人	4人	369日	19人	39,729
給与関係費等	24,793千円	11,218千円	3,458千円	260千円	
内、時間外勤務手当	803千円				

貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由
建物・工作物	少年自然の家建物の減価償却による減

▽経常費用の構成割合

物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	吹田市立少年自然の家
取得年月日	昭和55年(1980年)5月5日
建物・工作物の取得価額	415千円
建物・工作物の減価償却累計額	324,210千円
利用料金収入	1,938千円

▽分析指標

(単位:%)

分析指標	年度	平成29年度	平成30年度 A	令和元年度 B	差 B-A
施設維持補修費比率		1.7	1.1	3.6	2.5
施設老朽化比率		73.8	76.0	78.1	2.1
受益者負担比率		2.8	2.9	2.0	△0.9
徴収不能引当率		-	-	-	-
一般財源充当比率		97.0	96.6	97.7	1.1
経常費用対公共資産比率		22.6	20.5	23.4	2.9

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は57.0%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

経常経費の主なものは、給与関係が37,274千円(38.3%)、物件費33,057千円(34.0%)、減価償却費8,747千円(9.0%)、維持補修費14,768千円(15.2%)となっています。物件費の主な内訳は、5,769千円が警備委託料、3,205千円が清掃業務委託料、6,417千円が需用費(光熱水費・燃料費)で、維持補修費の主な内訳は、7,920千円が宿泊室間仕切り及び野外倉庫屋根改修工事、3,740千円が宿泊室の畳の取り換え改修費です。老朽化比率は、78.1%で前年度と比較しまして2.1%老朽化が進行しました。経常収入の少年自然の家使用料は、1,938千円で、令和2年(2020年)1月からの改修工事及び新型コロナウイルス拡大防止に伴う約3か月の臨時休館期間があったため、前年度と比較し28%減少しました。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

施設がオープンし約40年が経過しているため、施設改修については、利用者の安心・安全を第一に考えると共に、令和2年(2020年)4月から施設運営を行う指定管理者と共に利用者ニーズの把握や分析等について十分な意見交換を行い、本市公共施設の最適化計画に基づき、年次計画な修繕を実施していく必要があると考えています。なお、令和2年度(2020年度)中にトイレの洋式化及び宿泊室等の空調設備の改修工事を計画しています。経常収入については、令和2年(2020年)4月から使用料を改定し、市外利用者や成人利用者の使用料収入の増加が見込まれますが、使用料がアップしたことにより利用者が減少することにならないよう、指定管理者による利用者の満足度の向上に向けたサービスの提供やより魅力的な事業展開を図っていくことが重要であると認識しています。